



# 丸山はるみ いきいき通信 No.16

道政報告  
2024年9月号



子ども政策調査  
特別委員会

里親  
制度

## 相談・支援・普及啓発拡充を



質問に立つ丸山はるみ道議

道所管では2022年度で里親登録数は606世帯。委託率が34・8%となっており、里親の年齢構成では60代が38%と一番多くなっています。

丸山道議は今後、高齢化が課題となることを指摘し、里親登録数を増やす普及啓発の重要性を訴え、チ

### 制度の普及啓発に工夫を！

虐待や保護者の病气、経済的事情などで家庭養育を受けられない子どもは、乳児院や児童養護施設、里親家庭やファミリーホームなどで生活しています。子どもの成長過程では特定の信頼できる大人との間で愛着形成が重要とし、2016年児童福祉法が改正、家庭的環境である里親等での養育優先が原則とされました。里親制度の普及啓発、里親に対する相談支援や研修、新規開拓業務について道の姿勢を質しました。

### 養育里親に育児休業を

ラシ、ステッカー、カード等の作成、ポスターの公示について問いました。虐待防止対策担当課長は「北海道里親会連合会との連携で、一般人参加のパネルディスカッションの実施など新規開拓に取り組んでおり、今後は他都府県の事例を参考に制度の周知に取り組んでいく」と答えました。

丸山道議は里親支援に取り組む団体の「里子を迎えるに当たって一定期間その子と向き合う時間が必要であり、養育里親にも特別養子縁組や養子縁組里親のように育児休業を活用できることが切実な願い」の声を示しながら、家庭的養育推進に向け養育里親等の育児休業取得に取り組むべきと求めました。道は養育里親等育児休業の必要性について認めながらも他の自治体と共同で国に提案しているとの答弁にとどまりました。

## 「里親制度」社会全体に周知が必要



興正フォostリングセンターにて  
統括責任者 小野さんと

子ども政策調査特別委員会質問に先立って、札幌市内の里親支援団体（興正フォostリングセンター）を訪ねました。

里親には養子縁組ばかりでなく、児童の戸籍はそのままとし、里親家庭で児童を育てる養育里親等の下で家庭的養育を受け、実の親元に戻る児童もいます。

団体では、里親制度の周知・登録の推進や研修を実施、里親になってからも里親だからこそ生じる悩みや、里子の自立などに対する支援をします。

しかし「家庭的養育を里親の下で」と言っても課題は多く、里親になろうとする人ばかりでなく、社会全体が里親制度を理解する必要を感じました。

## 高校生と意見交換しました

子ども政策調査特別委員会で、北海道石狩翔陽高等学校を訪問しました。

意見交換のテーマは「ヤングケアラー」と「子どもの貧困」についてです。

議員2人と生徒3人でグループを作り、意見を出しやすいように工夫しました。今回のテーマに該当する生徒はまわりに見当たらないということでしたが、「もし自分が困ったらどうする？」との質問に「近くに住む祖父母や友達に相談するかな」と。生徒たちは、養護の先生のことには知っていても、スクールカウンセラーについては「いつ来ているんだろ



高校生と意見交流する丸山道議

う」と、あまりなじみがない様子でした。

日ごろから関係をつくるには、あまりにもスクールカウンセラーの配置が少なすぎるのではないかと、今後の課題も見える取り組みとなりました。



「物価高騰対策・原発廃炉・新幹線問題」  
共産党道議団が北海道に予算要望



濱坂副知事に要請する丸山・真下両道議

混迷する世界情勢と円安のもとで、道民の暮らしは厳しいままです。8月21日、丸山はるみ道議は真下紀子道議とともに、知事に道政執行と来年度予算編成に関する重点要望を行いました。

・物価高騰から暮らしを守る施策の実施・高校卒業までの子ども医療費無料化・泊原発は再稼働せず廃炉に・先の見えない北海道新幹線札幌延伸は立ち止まって再考すること等を求めました。

丸山道議は、核ゴミ最終処分場選定をめぐり、核燃料サイクルの行き詰まりを指摘、「泊原発の安全対策費が際限なくかさみ、電気料金が高騰することに道民の理解は得られない」と廃炉を訴えました。

～水産林務常任委員会道外視察～

7月16日から19日にかけて、  
北陸と関西の4県に、視察に訪れました。

福井県高浜町「UMI-KA R A」では、海や漁村の地域資源を活用し、地域振興を図る海業（うみぎょう）の取り組みで漁業を中心とした6次産業化に取り組んでいます。市場に隣接したスーパーには、大きなけすが並び、泳ぐ魚を選ぶと、店内でさばいしてくれます。



競りが行われる荷捌き室。2階から見学できます。

琵琶湖を見下ろす比叡山延暦寺は、2016年から10年かけて総本堂である根本中道を大改修中です。延暦寺の職員が山林の管理に森林組合とともに取り組んでいます。



1200年の歴史がある延暦寺でも、山林の木は多くは今が使い時という

滋賀県林業会館では、滋賀県内の森林から伐採された原木を県内の認定加工事業体で加工した「琵琶湖材」を使用し建設されています。県内に大型製材工場がなく、一般住宅向けの製材品を活用。設計から工夫を凝らし、県産材を活用しています。



大きな会議室も設計等の工夫で、一般向け製剤が利用できるとわかる

岐阜県立森林アカデミーでは、道内北森カレッジと同様、林業人材の育成にあたっています。

生徒たちは、校内に欲しい施設を自分たちで増設。座り心地の良い椅子を置いたホールの設計施工を説明してくれた生徒は、前職がブライダル関係と聞き一同驚き。併設する森林総合教育センターは、子どもから大人まで利用できる木育の拠点となっています。



生徒が増設したホールと椅子。座面の高さや背もたれの角度が絶妙で心地よい

一雨竜川の氾濫でコメとソバの生育に影響か一

7月23日から24日にかけて降った記録的な大雨により、深川市多度志で雨竜川が氾濫。付近の水田とソバ畑に被害が出ました。

丸山道議は26日、道議団とともに現地視察に入りました。田中昌幸深川市長はじめ市職員からの聞き取りののち、水没のあった現地へ。すでに水は引いていましたが、稲に泥が付いていました。その後、JAきたそらちを訪問した丸山議員は、現在の稲の生育状況と今後の影響について質問。

岩田清正代表理事組合長から「稲の穂が出て開花が始まるタイミングであるため、今後実はつくと思うが収量や品質への影響を懸念している」と説明を受けました。

日本共産党道議団は、道へ支援を求めていくと考えを示しました。



稲の生育状況を聞く道議団  
(左から真下・丸山両道議)ら

8月6日、広島に思いをはせ  
200基を超える灯ろうが、運河に浮かぶ



原爆が広島、長崎に投下されてから79年目の夏となりました。

今年も小樽原水爆禁止協議会が「おたる運河平和灯ろう流し」を開催しました。

暑さが和らぎ始めた夕刻、主催者挨拶を合図に、準備してきた灯ろうに火を灯し、ひとつずつ運河に浮かべます。

「皆さんの平和への願いを運河に浮かべましょう」との呼びかけに、観光客も次々と応える姿がありました。

